

授業科目名： 学校栄養指導論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三田陽子 畑山千春
			担当形態：オムニバス
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・ 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・ 食生活に関する歴史的及び文化的事項 ・ 食に関する指導の方法に関する事項		
授業のテーマ及び到達目標			
①栄養教諭制度の概要と関連法規を理解している。			
②栄養教諭の職務内容を説明できる。			
③（学校給食の管理）栄養管理、衛生管理、物品管理を理解している。			
④（食に関する指導）給食の時間をはじめ、体育科、家庭科及び特別活動の時間、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な時間と指導内容との関わりを理解している。			
⑤食に関する指導の全体計画作成とその展開の学びを通して「生きた教材」としての給食の意義を理解している。			
授業の概要			
栄養教諭は管理栄養士・栄養士免許を持ち、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ職員として、学校で食育推進の中核的な役割を担うことを期待されている。本授業では、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開し、学校給食を「生きた教材」として活用した効果的な指導を行うために必要な知識や技術を学ぶ。特に食に関する指導の方法については、指導案作成の手順に基づき教材作成も含め演習を通して学ぶ。発表と相互評価も行い、作成から実施、評価の方法への考察を深める。			
授業計画			
第1回：栄養教諭誕生の背景と意義（担当 三田）			
第2回：児童・生徒への食に関する指導の現状と課題（担当 三田）			
第3回：日本及び世界の食文化と歴史、学校給食の歴史と意義（担当 三田）			
第4回：学校組織と栄養教諭の位置づけ及び役割（担当 畑山）			
第5回：食に関する指導の全体計画（作成の必要性、作成の手順、評価）（担当 畑山）			
第6回：給食の時間における食に関する指導（担当 畑山）			
第7回：教科における食に関する指導（生活科、家庭科、技術・家庭科（家庭分野））（担当 畑山）			
第8回：教科における食に関する指導（体育科、保健体育科、保健）（担当 畑山）			
第9回：教科における食に関する指導（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、理科、道徳）（担当 畑山）			

畑山)

第10回：学校・家庭または学校・地域と連携した食に関する指導（アレルギーや肥満傾向などの個別指導を含む）（担当 畑山）

第11回：食に関する指導とその方法 演習①指導案を作成する。（担当 畑山、三田）

第12回：食に関する指導とその方法 演習②指導案を完成させる。（担当 畑山、三田）

第13回：食に関する指導とその方法 演習③教材を作成する。（担当 畑山、三田）

第14回：食に関する指導とその方法 演習④教材を完成させる。（担当 畑山、三田）

第15回：食に関する指導とその方法 演習⑤指導案発表、相互評価、まとめ（担当 畑山、三田）

定期試験

テキスト

四訂 栄養教諭論—理論と実際— 金田雅代 編著 建帛社

小学校学習指導要領（平成29年告示） 文部科学省 東洋館出版社

中学校学習指導要領（平成29年告示） 文部科学省 東山書房

参考書・参考資料等

学校見聞録 学びの共同体の実践 佐藤学 小学館

食に関する指導の手引き—第二次改訂版— 文部科学省

栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～
文部科学省

学生に対する評価

単位認定試験（30％）、演習課題（30％）、レポート課題（20％）、
授業参加意欲（20％）

授業科目名： 学校栄養指導論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：相良多喜子 担当形態：単独
科 目	栄養に係る教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・ 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・ 食生活に関する歴史的及び文化的事項 ・ 食に関する指導の方法に関する事項		
授業のテーマ及び到達目標 1.学校における栄養教諭の役割および職務、その専門性を理解する。 2.栄養教諭として、自らの「食に関する指導」が立案できる。 3.模擬授業を通して指導力を身に付ける。			
授業の概要 食を通じて健康教育を行う重要性を理解し、食に関する指導（食育）の実践をめざし、その考 え方、手法を検討する。学習指導要領や食に関する指導の手引きを踏まえ、栄養教諭が実際に 食に関する指導を行う意義、機会、方法を探る。栄養教諭としての役割、専門性を活かし、よ り望ましい食生活をめざすための指導を企画し、その配慮、技法も追及していく。最終的には 模擬授業を実施する。			
授業計画 第1回：食に関する指導の展開・食の指導に関する指導の手引き 第2回：学習指導要領・学習指導案 第3回：給食の時間における食に関する指導 第4回：「家庭科」「生活科」における食に関する指導 第5回：「体育科・保健体育科」「総合的な学習の時間」における食に関する指導 第6回：「道徳」「特別活動」における食に関する指導 第7回：「理科」「社会」における食に関する指導 第8回：発達に応じた食に関する指導と食育教材および食生活学習教材 第9回：学習指導計画の検討 ①学習指導計画（模擬授業の内容）の発表 第10回：学習指導計画の検討 ②模擬授業の「学習指導案」の作成と修正 第11回：模擬授業（1）小学校低学年を対象に指導力を身に付ける 第12回：模擬授業（2）小学校高学年を対象に指導力を身に付ける 第13回：模擬授業（3）中学生を対象に指導力を身に付ける 第14回：模擬授業の評価、振り返り 第15回：食に関する指導における個別指導・まとめ 定期試験			
テキスト『四訂 栄養教諭論—理論と実際—』金田雅代 編著（建帛社）			
参考書・参考資料等			

食に関する指導の手引き～第 1 次改定版～（文部科学省）『栄養教諭論Ⅱ～実践研究～』金田雅代 編著 （建帛社）

学生に対する評価

発表や模擬授業の取り組み40%、試験60%の総合評価

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土屋 仁美 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
①憲法の役割と機能を理解する。			
②憲法の基本的な知識や論点を理解する。			
③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、 憲法学的な観点から考察する力を身につける。			
授業の概要			
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることによって良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）			
第2回：日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）とその関係性について理解する。）			
第3回：平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）			
第4回：「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の種類、享有主体、適用範囲について理解する。）			
第5回：データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）			
第6回：自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）			
第7回：すぐそばにある差別：法の下での平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下での平等について理解する。）			
第8回：なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）			
第9回：胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）			

第10回：信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）

第11回：インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）

第12回：規制緩和の表と裏：職業選択の自由について学びます。（経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。）

第13回：どうする？ 子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）

第14回：教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）

第15回：基本的人権を保障するために（三権分立と立法、行政、裁判所の役割について理解する。）

定期試験

テキスト

『基本的人権の事件簿——憲法の世界へ』第6版, 棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著, 有斐閣, 2019年, ISBN978-4-641-28147-9

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

小テスト（25%）、小レポート（5%）、期末テスト（70%）

授業科目名： 生涯スポーツA (ゴルフ)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：永山 亮一 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
① ゴルフの競技特性を理解する。			
② ゴルフの基本的技術を習得する。			
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。			
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。			
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。			
授業の概要			
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。			
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。			
ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。			
第2回：パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。			
第3回：ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。			
第4回：ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。			
第5回：ショットの基本③：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。			
第6回：ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール・・・スイング及びフェースの向きによ			

って生じる 9 種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。 第 7 回：ショットの基本⑤：VTR による視覚的フィードバック。自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。 第 8 回：ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。 第 9 回：ショットの基本⑦：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。 第 10 回：講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する 第 11 回：ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする 第 12 回：ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。 第 13 回：ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。 第 14 回：ショートゲームテストとまとめ 第 15 回：講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業参加態度（60％）、種目毎に実施するスキルテスト（30％）、レポート（10％）

授業科目名： 生涯スポーツA (テニス)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 田邊 圭子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う			
授業の概要 本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明 第2回：グリップング、ラケットワーク 第3回：基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。 第4回：基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。 第5回：基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。 第6回：基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。 第7回：基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。 第8回：基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。 第9回：簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。 第10回：講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用			

できるようにする。 第11回：ゲーム1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。 第12回：ゲーム2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようになる。 第13回：ゲーム3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。 第14回：ゲーム4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。 第15回：講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業参加態度（60％）、種目毎に実施するスキルテスト（30％）、レポート（10％）

授業科目名： 生涯スポーツA (バドミントン)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：宮本 勝裕 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
① バドミンントンの競技特性を理解する。 ② バドミンントンの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。			
授業の概要			
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「バドミントン」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明			
第2回：バドミンントンの楽しみ方1：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。			
第3回：バドミンントンの楽しみ方2：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。			
第4回：バドミンントンの基礎(基本ストローク) 1：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。			
第5回：バドミンントンの基礎(基本ストローク) 2：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。			
第6回：バドミンントンの基礎(基本ストローク) 3：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。			
第7回：バドミンントンの基礎(基本ストローク) 4：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。			

第8回：バドミントンの基礎（基本ストローク）5：横からの基本ストローク(ドライブ)の技術を理解し、打てるようになる。

第9回：バドミントンの基礎（基本ストローク）6：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。

第10回：講義：ダブルス・シングルのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。

第11回：間レベル確認：これまでに学習した基本ストローク技術の習得度合いを確認する。

第12回：ゲーム1：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。

第13回：ゲーム2：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。

第14回：ゲーム3：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ

第15回：講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業参加態度（40％）、種目毎に実施するスキルテスト（40％）、課題レポ（20％）

授業科目名： 生涯スポーツB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：永山 亮一 田邊圭子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。			
② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。			
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。			
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。			
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。			
授業の概要			
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。			
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。			
ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。			
ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。			
なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）			
授業計画			
第1回：ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。			
第2回：フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。			
第3回：フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。前回習得した技術を基に、ドッジビーなどのゲームを楽しむ。			
第4回：ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。オーバーパス			

アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
第5回：ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
第6回：ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
第7回：インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
第8回：インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
第9回：フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
第10回：フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
第11回：ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
第12回：ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
第13回：タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
第14回：タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
第15回：講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。	
テキスト	
なし	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
授業参加態度（70%）、授業中に実施するミニスキルテスト（20%）、レポート（10%）	

授業科目名： 生涯スポーツB (ゴルフセミナー)		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 永山 亮一・田邊 圭子 担当形態：複数
科 目		教育職員免許法施行規則第6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。				
② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。				
③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。				
④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。				
⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。				
⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。				
⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。				
授業の概要				
本野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。				
ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィアの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。				
なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本頁）」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）				
※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。				
※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。				
。				
授業計画				
第1回：事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。				
第2回：【実習 1 日目 午前Ⅰ】 開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、				

エイミング、ショートスイング ～ スリークォータースイング（9I）

第3回：【実習 1日目 午前Ⅱ】 レッスン②：スリークォータースイング ～ ハーフスイング（9I）

第4回：【実習 1日目 午後Ⅰ】 レッスン③：ハーフスイング ～ フルスイング（9I）

第5回：【実習 1日目 午後Ⅱ】 レッスン④：ハーフスイング ～ フルスイング（9I、7I、5I）

第6回：【実習 2日目 午前Ⅰ】 レッスン⑤：9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影

第7回：【実習 2日目 午前Ⅱ】 レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。／ VTR撮影

第8回：【実習 2日目 午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。

第9回：【実習 2日目 午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。

第10回：【実習 3日目 午前Ⅰ】 レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。

第11回：【実習 3日目 午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング／打ち込み。

第12回：【実習 3日目 午後Ⅰ】 レッスン⑪：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。

第13回：【実習 3日目 午後Ⅱ】 レッスン⑫：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネジメントの考え方を学習する。

第14回：【実習 4日目 午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。

第15回：【実習 4日目 午後】 ラウンド実習②：本コース 9ホールのはーフラウンド体験を行う。／閉講式

定期試験：実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業参加態度（80％）、実習終了後のレポート評価（20％）

授業科目名： 生涯スポーツB (スキーセミナー)		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 永山 亮一・田邊 圭子 担当形態：複数
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標 ① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。 ④ ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。 ⑤ ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。 ⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。				
授業の概要 本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県梅池高原スキー場にて 3 泊 4 日の合宿形式にて行う。 スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、“スキーヤー”としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー（本頁）」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照） ※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。 ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。				
授業計画 第 1 回：事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握。用具の準備（用具とその使用法の説明、パッキング） 第 2 回：【実習 1 日目 午後 I】 開講式／クラス編成確認（技術レベル別に編成）				

第3回：【実習 1 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン①
第4回：【実習 1 日目 夜】 講義：スキー技術の変遷／スキー用具のメンテナンス
第5回：【実習 2 日目 午前Ⅰ】 VTR 撮影／クラス別レッスン②
第6回：【実習 2 日目 午前Ⅱ】 クラス別レッスン③
第7回：【実習 2 日目 午後Ⅰ】 クラス別レッスン④
第8回：【実習 2 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑤／ VTR 撮影
第9回：【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキーのメンテナンス
第10回：【実習 3 日目 午前Ⅰ】 VTR 撮影／クラス再編成／クラス別レッスン⑥
第11回：【実習 3 日目 午前Ⅱ】 クラス別レッスン⑦
第12回：【実習 3 日目 午後Ⅰ】 クラス別レッスン⑧
第13回：【実習 3 日目 午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑨／ VTR 撮影
第14回：【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキー用具のメンテナンス
第15回：【実習 4 日目 午前】 クラス別レッスン⑩／閉講式
定期試験：実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業参加態度（80％）、実習終了後のレポート評価（20％）

授業科目名：英語AⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： アンソニー ダガン
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。			
授業の概要			
この科目は英語科目最上位として位置づける。基礎学力テストの結果または、CEFR B2+～C1の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
第2回：Unit 1 (1)Artificial Intelligenceをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする			
第3回：Unit 1 (2) Artificial Intelligenceについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる			
第4回：Unit 2 (1) Business:The Sharing Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする			
第5回：Unit 2 (2) Business:The Sharing Economyについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる			
第6回：Unit 3 (1) Food Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする			
第7回：Unit 3 (2) Food Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する、			
第8回：Unit 1～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1)			
Unit 4 (1) Plastic Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする			
第9回：Unit 4 (2) Plastic Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する			

第10回: Unit 5 (1) The Japanese Mentalityをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う

第11回: Unit 5 (2) The Japanese Mentalityについてディスカッションを振り返り、自分の意見をまとめ発表する。Unit 4～Unit 5の復習、振り返り

第12回: Unit 6 (1) Space Explorationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う

第13回: Unit 6 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する。Unit 7 (1) Immigrationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う

第14回: Unit 7 (2) Immigrationについて自分の意見をまとめ発表する。

これまでに学んだことから各自が選んだテーマについてスピーチまたはプレゼンテーションを行う

第15回: これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出

定期試験

テキスト

CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al. 2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)

授業科目名：英語B I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： キャサリン シュリーヴズ
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。			
授業の概要			
この科目は英語C I・IIの単位を修得した者、基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、またCEFR B2の能力を有すると判断された者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
第2回：Unit 1 (1) Cell phonesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第3回：Unit 1 (2) Cell phonesをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。			
第4回：Unit 2 (1) 'Freeters'をテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第5回：Unit 2 (2) 'Freeters'をテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。			
第6回：Unit 3 (1) The Olympic Gamesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第7回：Unit 3 (2) The Olympic Gamesをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。			
第8回：Unit 1～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1)			

Unit 4 (1) Marriageをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。 第9回:Unit 4 (2) Marriageをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。 第10回:Unit 5 (1) Smoking and drinkingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする 第11回:Unit 5 (2) Smoking and drinkingをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。 第12回:Unit 6 Englishをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。 第13回:Unit 7 Exerciseをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。 第14回:Unit 1～Unit 7 これまで学んだことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 第15回:Unit 1～Unit 7これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出、共通到達度確認テスト。 定期試験	テキスト Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty. 成美堂. ISBN: 978-4791960286 参考書・参考資料等 なし 学生に対する評価 授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)
--	--

授業科目名：英語C I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：カーラ カリー 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・ 得た情報をもとに言語使用ができる。 ・ 会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～Fにクラスを分けて開講する。CクラスはCEFR B1～B2程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
第2回：Unit 1 (1) Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。			
第3回：Unit 1 (2) OccupationsについてDear Future Selfと題した手紙を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第4回：Unit 2 (1) At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。can/could/mightなどの接続詞の法助動詞が正しく使えるようになる。			
第5回：Unit 2 (2) At the Dinner Tableについてレストランでの会話を完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第6回：Unit 3 (1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。			
第7回：Unit 3 (2) Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第8回：Unit 1 ～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4 (1) Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。			
第9回：Unit 4 (2) Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを			

先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
第10回	Unit 5 (1) Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。
第11回	Unit 5 (2) Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像して書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。
第12回	Unit 6 (1) At the Moviesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。
第13回	Unit 6 (2) At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。
第14回	Unit 1～Unit 6 これまで学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする
第15回	Review (Unit 1 - Unit 6)に取り組む これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出、共通到達度確認テスト
定期試験	
テキスト	
Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)	

授業科目名：英語D I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： エリック モーニン
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・世界遺跡をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。			
・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～Fにクラスを分けて開講する。DクラスはCEFR A2+～B1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション(助業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する			
第2回：Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第3回：Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する			
第4回：Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第5回：Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する			
第6回：Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第7回：Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する			
第8回：Unit 1～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) これまでに学んだテーマから1つを選びショースピーチをする。			
第9回：Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。			
第10回：Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する。			
第11回：Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。			
第12回：Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する			
第13回：Unit 7 (1) カップドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。			
本時に学んだことを基にまとめ発表する。			
第14回：これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。			

第15回：前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出、共通到達度確認テスト

定期試験

テキスト

笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況（30％）、到達度確認テスト・期末テスト（40％）、口頭表現（10％）、共通到達度確認テスト（20％）

授業科目名：英語 E I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：宮浦国江、中野 聡、マシユー・ボッシュ、白 井雅代、本間千重子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。			
・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～F にクラスを分けて開講する。E クラスは CEFR A2 程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより 5 技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
第 2 回：Unit 1 (1) 異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第 3 回：Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーディングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する			
第 4 回：Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第 5 回：Unit 2 (2) 和食について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
第 6 回：Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第 7 回：Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
第 8 回：Unit 1～Unit 3 の復習、到達度確認テスト(1)			
Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第 9 回：Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
第 10 回：Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第 11 回：Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する。Unit 1～Unit5 の復習、振り返り			
第 12 回：Unit 1～Unit 5 で学んだことから各自 1 つのテーマを選び、ショートスピーチをする			
Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			

第13回：Unit 6 (2) 生き物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する

Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する

第14回：Unit 7 (2) 芸術について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する

これまで学んだことがらから各自1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーション
をする

第15回：これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクシ
ョン最終提出、共通到達度確認テスト

定期試験

テキスト

VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』201
8年 金星堂 ISBN:9784764740549

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況（30％）、到達度確認テスト・期末テスト（40％）、口頭表現（10％）、共
通到達度確認テスト（20％）

授業科目名：英語 F I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 木村ゆかり、本間千重子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できる。			
・ 基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～F にクラスを分けて開講する。F クラスはCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより 5 技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction			
第 2 回：Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する			
第 3 回：Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する			
第 4 回：Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する			
第 5 回：Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う			
第 6 回：Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる			
第 7 回：Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う			
Unit 1 ～ Unit 3 の振り返り			
第 8 回：Unit 1 ～ Unit 3 の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ			
第 9 回：Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う			
第 1 0 回：Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動について			

の表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する 第11回：Unit 5 (2) 自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する 第12回：Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する 第13回：Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ～ Unit 7の振り返り 第14回：Unit 1～Unit 7 これまで学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。Peer review を行う 第15回：これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出、共通到達度確認テスト 定期試験
テキスト 『English First Basic』, Robert Hickling・臼倉美里著, 2014年, 金星堂, ISBN9784764739703
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)

授業科目名：英語AⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： アンソニー　ダガン
			担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。			
授業の概要			
この科目は英語AⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR B2+～C1の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：クラスオリエンテーション、　Unit 8 (1) Education: Online Learningをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、ディスカッションを行う			
第2回：Unit 8 (2) Online Learningについて自分の意見をまとめ発表する			
第3回：Unit 9 (1) Entertainmentをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う			
第4回：Unit 9 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する			
第5回：Unit 10 (1) The Agricultural Revolutionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う			
第6回：Unit 10 (2) The Agricultural Revolutionについて自分の意見をまとめ発表する			
Unit 11 (1) The Aging Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う			
第7回：Unit 11 (2) The Aging Societyについて自分の意見をまとめ発表する			
Unit 12 (1) DNA Technologyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う			
第8回：Unit 12 (2) DNA Technologyについて自分の意見をまとめ発表する			

Unit 8～Unit 12の復習、到達度確認テスト(1)
第9回：Unit 13 (1) Trade Warをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う
第10回：Unit 13 (2) Trade Warについて自分の意見をまとめ発表する
Unit 14 (1) Religionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う
第11回：Unit 14 (2) Religionについて自分の意見をまとめ発表する
第12回：Unit 15 (1) Privacy and Freedom of Expressionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う
第13回：Unit 15 (2) Privacy and Freedom of Expressionについて自分の意見をまとめ発表する
第14回：Unit 13～Unit 15の復習、振り返り
Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う
第15回：Unit 8～Unit 15の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出
定期試験
テキスト
CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al.2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
授業・課題取組状況（30%）、到達度確認テスト・期末テスト（40%）、口頭表現（10%）、共通到達度確認テスト（20%）

授業科目名：英語ＢⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： キャサリン シュリーヴズ
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。			
授業の概要			
この科目は英語ＢⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR B2の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより 5 技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、Unit 8 (1) Divorceをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第2回：Unit 8 (2) Divorceをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。			
第3回：Unit 9 (1) Traffic in city centersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第4回：Unit 9 (2) Traffic in city centersをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。			
第5回：Unit 10 (1) Working parentsをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			
第6回：Unit 10 (2) Working parentsをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。			
第7回：Unit 11 (1) Computersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。			

第8回：Unit 11 (2) Computersをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。Unit 8 ～ Unit 11の復習、到達度確認テスト(1)

第9回：Unit 12 (1) Televisionをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。

第10回：Unit 12 (2) Televisionをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。

第11回：Unit 13 Gamblingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。

第12回：Unit 14 Gender gapをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。

第13回：Unit 15 Cloningをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。Unit 8～Unit 15で学んだことがらからテーマを各自一つ選びスピーチまたはプレゼンテーションの準備をする

第14回：各自が選んだテーマについてのスピーチまたはプレゼンテーションをする。Peer reviewを行う

第15回：Unit 8～Unit 15の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出、共通到達度確認テスト。

定期試験

テキスト

Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty . 成美堂. ISBN: 978-4791960286

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)

授業科目名：英語CⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： カーラ カリー
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・ 得た情報をもとに言語使用ができる。 ・ 会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～Fにクラスを分けて開講する。英語CⅡは英語CⅠの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション Unit 7 (1) Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO + Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。			
第2回：Unit 7 (2) Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第3回：Unit 8 (1) Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。			
第4回：Unit 8 (2) Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第5回：Unit 9 (1) Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。			
第6回：Unit 9 (2) Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			
第7回：Unit 10 (1) Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。			
第8回：Unit 10 (2) Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。			

第9回：Unit 7 ～ Unit 10の復習、到達度確認テスト(1) これまで学んだことから、各自1つのテーマを選び、ショートスピーチをおこなう。

第10回：Unit 11 (1) Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。

第11回：Unit 11 (2) Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。

第12回：Unit 12 (1) The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。

第13回：Unit 12 (2) The Power of Wordsについてriddlesの作り方を参考に自分でもriddleを作り、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。

第14回：Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組み、む。これまで学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。

第15回：これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出

定期試験

テキスト

Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況（30％）、到達度確認テスト・期末テスト（40％）、口頭表現（10％）、共通到達度確認テスト（20％）

授業科目名：英語DⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： エリック モーニン
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。			
・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～Fにクラスを分けて開講する。英語DⅡは英語DⅠの単位を修得した者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：クラスオリエンテーション			
Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第2回：Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する			
第3回：Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。			
第4回：Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する			
第5回：Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第6回：Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する			
Unit 8 ～ Unit 10の振り返り			
第7回：Unit 11 (1)アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第8回：Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する			
Unit 8 ～ Unit 11の復習、到達度確認テスト(1)			
第9回：Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第10回：Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する			
第11回：Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する			
第12回：Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する			
第13回：Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする。			
第14回：Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う。			

第15回：これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出

定期試験

テキスト

笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業・課題取組状況（30%）、到達度確認テスト・期末テスト（40%）、口頭表現（10%）、共通到達度確認テスト（20%）

授業科目名：英語EⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮浦国江、中野聡、マシュー ボッシュ、白井雅代、本間千 重子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。			
・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～Fにクラスを分けて開講する。英語EⅡは英語EⅠの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第1回：クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等			
第2回：Unit 9 (1) ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第3回：Unit 9 (2) ニンジャについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
Unit 10 (1) 児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第4回：Unit 10 (2) 児童就労について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
Unit 11 (1) 長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第5回：Unit 11 (2) 長寿について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
Unit 9 ～ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする			
第6回：各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う			
Unit 12 (1) 騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第7回：Unit 12 (2) 騒音公害について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			
Unit 13 (1) 食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する			
第8回：Unit 13 (2) 食物廃棄について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する			

Unit 12 ～ Unit 13の復習、到達度確認テスト(1)、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする
第9回：各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う
Unit 14 (1) ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する
第10回：Unit 14 (2) ダンスクラブと法規制についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする
第11回：Unit 14 (3) ダンスクラブと法規制について意見を発表する
Unit 15 (1) ドローン为例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する
第12回：Unit 15 (2) ドローン为例に科学技術の進歩についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする
第13回：Unit 15 (3) ドローン为例に科学技術の進歩について意見を発表する
Unit 12 ～ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びスピーチまたはプレゼンテーションの準備をする
第14回：各自が選んだテーマについてスピーチまたはプレゼンテーションを行う
第15回：これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出
定期試験
テキスト
VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
授業・課題取組状況 (30%)、到達度確認テスト・期末テスト (40%)、口頭表現 (10%)、共通到達度確認テスト (20%)

授業科目名：英語 F II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 木村ゆかり、本間千重子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。			
・ 現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。			
授業の概要			
この科目は基礎学力テストの結果に基づき、A～F にクラスを分けて開講する。英語 F II は英語 F I の単位を修得した者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面にに基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより 5 技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。			
授業計画			
第 1 回：クラスオリエンテーション			
Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ			
第 2 回：Unit 8 (2) 今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文して、発表を行う			
第 3 回：Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる			
第 4 回：Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う			
第 5 回：Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ			
第 6 回：Unit 10 (2) これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う			
第 7 回：Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる			
第 8 回：Unit 11 (2) 自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う			
Unit 8～Unit 11の復習、到達度確認テスト(1)、			
第 9 回：Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現			

を学び、自分の2人の友人についての作文をする 第10回：Unit 12 (2) 自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等について説明する表現を学び、作文をする 第11回：Unit 13 (2) 自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14 (1) 分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする 第12回：Unit 14 (2) 絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15 (1) 関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする 第13回：Unit 15 (2) 自分の大学についての発表を行う Unit 12 ～ Unit 15の振り返り 第14回：これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。 第15回：これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、共通到達度確認テスト、リフレクション最終提出 定期試験	
テキスト 『English First Basic』, Robert Hickling・臼倉美里著, 2014年, 金星堂, ISBN9784764739703	
参考書・参考資料等 なし	
学生に対する評価 授業・課題取組状況（30％）、到達度確認テスト・期末テスト（40％）、口頭表現（10％）、共通到達度確認テスト（20％）	

授業科目名：情報機器演習A	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：沢田 史子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。			
②電子メールの送受信ができるようになる。			
③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。			
④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。			
⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。			
⑥Google ドキュメントで文章を作成し、Google Classroomにより提出することができるようになる。			
⑦Google スプレッドシートの基本操作を知る。			
授業の概要			
この科目は初年次教育科目のひとつとして開講する。この科目の目的は二つあり、第1にコンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高める。特に代表的なアプリケーションである文書作成、表計算能力は、学士として必要になるレポート作成の基礎力となる。また電子メールも日常生活において欠かせない能力として操作方法やマナーなどを習得する。第2に情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）と情報モラルを養う。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。「基礎ゼミⅠ」と連携して文書作成、表計算能力やICT機器の応用についても身に付ける。			
授業計画			
第1回：Google ドキュメントを作成し、Google Classroomにより提出する方法を習得する。			
第2回：Gmailの送受信方法を習得する。学内の情報環境を知る。Windowsの基礎操作とさまざまな文字の入力方法を身につける。			
第3回：Word①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。			
第4回：情報倫理：インターネットを利用する際のマナーやモラルを身につける。			
第5回：Excel①：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。			
第6回：Excel②：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。			
第7回：Excel③：条件分岐関数の操作方法を習得する。			
第8回：Excel④：表引き関数の操作方法を習得する。			
第9回：Excel⑤：これまで学習したExcel操作について振り返りを行い、小テストで習熟度の確認を行			

う。
第10回：Excel⑥：基本的なグラフの作成方法を習得する。
第11回：Excel⑦：データの並べ替え・抽出方法を習得する。
第12回：Word②：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。
第13回：Word③：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。
第14回：総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。
第15回：スプレッドシート：基本的な操作方法を学ぶ。Excelとの違いを知る。
テキスト 『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】』 (noa出版, 2019年)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 情報倫理 (10%)、Excel小テスト (30%)、総合課題 (15%)、授業参加態度 (45%)

授業科目名：情報機器演習B	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：沢田 史子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
①Excelで複合グラフが作成できる。			
②PowerPointの基本操作を習得する。			
③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、PowerPointで資料を作成して発表できるようになる。			
④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。			
⑤Googleフォームの基本操作を習得する。			
⑥Googleスライドの基本操作を知る。			
授業の概要			
この科目は初年次教育科目のひとつとして開講する。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作を習得し、プレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。また、近年データ入力やアンケートの多くがフォームで実施されている。Googleフォームの基本的操作を習得し、データ収集・管理する力を養うことを目指す。「基礎ゼミⅡ」と連携して発表能力と共にICT機器の応用についても身に付ける。			
授業計画			
第1回：Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返りを行う。			
第2回：Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。			
第3回：プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。			
第4回：PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。			
第5回：PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。			
第6回：PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。			
第7回：PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。			
第8回：PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。			
第9回：PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の			

受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。 第10回：PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。 第11回：PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。 第12回：Googleスライド：基本的な操作方法を学ぶ。PowerPointとの違いを知る。 第13回：Googleフォーム①：簡単なアンケートを作成し、基本操作を習得する。 第14回：Googleフォーム②：オリジナルアンケートを作成する。 第15回：Googleフォーム③：アンケート結果をまとめる。
テキスト 『イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応【NESS付】』 (noa出版, 2019年)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 Excel関数の応用とグラフ作成（10%）、プレゼンテーション（40%）、アンケート作成とまとめ（20%）、授業参加態度（30%）

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井万寿夫 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育学とは何か：教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子供・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。			
②教育の歴史と制度：学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解している。			
③現代の教育課題：現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。			
④教育の思想：家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。			
授業の概要			
教育は過去から現在にわたるリレーであるとともに、未来につなげ人類の歴史を紡ぐ営みである。この観点から本科目は教育学について基礎的な事柄を理解するため、教育に関する理念、子ども観、教育学の歴史、思想等をテーマとする。そして、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたかについて西洋の教育史、中国の教育史、日本の教育史を通観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて講義を進めていく。			
授業計画			
第1回：教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。）			
第2回：育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）			
第3回：教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）			
第4回：教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子供の発達に伴う教育の場としての家庭、学校、地域とそれらの関係について理解する。）			
第5回：教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）			
第6回：教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基			

礎的な知識を身に付ける。)

第7回：教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。)

第8回：教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。)

第9回：教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。)

第10回：近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。)

第11回：現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。)

第12回：教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。)

第13回：教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。)

第14回：教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。)

第15回：学習のまとめ：期末レポートのテーマ、作成の留意点をもとに作成する。

定期試験

テキスト

『教育学概論 第2版（教師教育テキストシリーズ）』，三輪定宣著，学文社，2019年出版，ISBN978-4-7620-2878-6

参考書・参考資料等

『保育所保育指針』厚生労働省2017年告示、『幼稚園教育要領』文部科学省2017年告示、『小学校学習指導要領』文部科学省2017年告示、『中学校学習指導要領』文部科学省2017年告示／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省2017年告示

学生に対する評価

小レポート20%、小テスト20%、授業態度10%、定期試験50%

授業科目名：教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中島賢介 虫明淑子
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①幼・小・中・高・栄の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。			
②教員の職務と服務について理解する。			
③教師をめぐる現状と課題について知る。			
④教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。			
授業の概要			
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、栄養教諭免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。			
授業計画			
第1回：これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方について理解する。 （担当：虫明淑子）			
第2回：教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。 （担当：虫明淑子）			
第3回：子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。 （担当：虫明淑子）			
第4回：現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて理解する。（担当：虫明淑子）			
第5回：幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか。その理由について考える。（担当：虫明淑子）			
第6回：教員としての職務の全体像 校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する。（担当：中島賢介）			

第7回：研修の必要性と教員研修制度 研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。

（担当：中島賢介）

第8回：教員の義務と身分保障 服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。

（担当：中島賢介）

第9回：チーム学校の組織と指導体制 共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。

（担当：中島賢介）

第10回：公教育の理念と学習指導要領 公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。

（担当：中島賢介）

第11回：教育制度関係法規の理解 教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。

（担当：中島賢介）

第12回：わが国の教育制度と課題 現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。

（担当：中島賢介）

第13回：地域連携と特色ある学校づくり 地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。

（担当：中島賢介）

第14回：学校の危機管理と安全教育 安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。

（担当：中島賢介）

第15回：これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。

（担当：中島賢介）

定期試験は実施しない

テキスト

『「天才」は学校で育たない』汐見稔幸 ポプラ新書 2017

『現代の教師論』佐久間亜紀・佐伯胖編著 ミネルヴァ書房 2019

参考書・参考資料等

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋出版社

『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋出版社

『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋出版社

学生に対する評価

受講態度・授業参加状況 50%

課題レポート 50%

授業科目名：教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹中祐二
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。			
②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。			
③戦後日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会学的な視点から、文章によって解答することができる。			
④現代日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会学的な視点から、文章によって解答することができる。			
⑤学校と地域との連携・協働の観点から、開かれた学校づくりが推進されてきた経緯を理解するとともに、連携の意義及び協働の仕方について具体例を交えながら文章によって説明することができる。			
⑥学校管理下で発生する事件、事故及び災害の実情から、学校安全への対応が必要であることを理解するとともに、安全上の課題について具体例を交えながら文章によって説明することができる。			
授業の概要			
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E. デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。その際、貧困やいじめ、部活動等の現代的な問題によって安心・安全に教育を受ける権利が阻害されることがないようにするための、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。			
授業計画			
第1回：イントロダクション…社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。			
第2回：近代教育制度の成立①…近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、			

制度としての教育が成立する過程について確認する。

第3回：近代教育制度の成立②…西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。

第4回：近代教育制度の成立③…戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。

第5回：社会における教育の意義①…社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。

第6回：社会における教育の意義②…今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。

第7回：社会における教育の意義③…グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。

第8回：小括…これまでの学習内容を振り返り、「教育」を「社会学的に考える」ことの意義を再確認する。

第9回：日本における教育環境の変遷①…戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。

第10回：日本における教育環境の変遷②…教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。

第11回：日本における教育環境の変遷③…少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。

第12回：日本における教育環境の変遷④…今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。

第13回：日本における教育環境の変遷⑤…今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。

第14回：学級経営における多機関連携①…「チーム学校」論の概要について学び、開かれた学校づくりが推進されてきた経緯を理解するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめとする、教員以外の専門職と連携する意義や協働の方法について、具体例を交えながら、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。

第15回：学級経営における多機関連携②…「チーム学校」論の視点から、「いじめ」・「授業・部活動・給食・登下校時等の事故」・「災害発生時の子どもへの影響や対応」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。

定期試験

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

『現場で使える教育社会学』

中村高康・松岡亮二 ミネルヴァ書房 2021年＜ISBN:978-4623092604＞

『よくわかる教育社会学』

酒井朗・中村高康・多賀太 ミネルヴァ書房 2012年＜ISBN:978-4623062935＞

『教育の社会学〔新版〕』

荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗 有斐閣 2010年＜ISBN:978-4641124004＞

学生に対する評価

期末レポートやワークシートの内容および授業その他課題へ取り組む態度によって総合的に評価する。

授業科目名：発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：齊藤英俊
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、以下の3点を到達目標とする。			
①発達心理学の諸理論に関する基礎知識の習得。			
②各年齢期において達成されるべき発達課題や学習過程について知識の習得。			
③発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期および児童期、青年期の各年代に対する基本的な関わりについて理解する。			
授業の概要			
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学研究の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の発達のしくみについて学ぶ。とくに乳幼児期から青年期にかけての発達に焦点をあてながら、各発達段階における心理的発達の課題の特徴、それらの課題の生涯発達のなかでの位置づけや心身の発達と学習の過程とのつながり、一人ひとりの発達に応じた多様な学びのあり方について理解を深める。さらに、心理的発達における子どものつまずきや問題や対応のあり方についても考える。			
授業計画			
第1回：発達心理学を学ぶ意義			
第2回：「発達」を考える①：発達段階と各段階における発達課題について			
第3回：「発達」を考える②：各発達段階における子どもたちの学習活動（学習への動機づけや各年代の仲間集団の形成過程など）の特徴と各年代の学習活動への評価との関係について			
第4回：胎児期～乳児期①：胎児や新生児の発達と有能さについて			
第5回：胎児期～乳児期②：乳児期の情動、認知、言語の発達について			
第6回：胎児期～乳児期③：対人関係の基盤（愛着：アタッチメント）について			
第7回：幼児期①：幼児期の言語発達と自己概念の成立について			
第8回：幼児期②：幼児期の社会性の発達について			
第9回：幼児期③：幼児期の認知発達の特徴と幼児教育との関連や幼児期の学びへの支援について			
第10回：児童期①：友人関係の展開と児童期における学習の特徴と学習への支援について			
第11回：児童期②：児童の道徳性や向社会性の発達について			
第12回：青年期①：青年期の心身の変化や仲間集団の特徴と学習の過程との関係について			

第13回：青年期②：自我同一性（アイデンティティ）の確立について

第14回：成人期・老年期：大人になること、老いることの意味について

第15回：「発達障害」の理解と対応を学ぶことを通して、一人ひとりの発達の過程に応じた多様な学習のあり方について考える

定期試験

テキスト

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子（2014）．問いからはじめる発達心理学 有斐閣

参考書・参考資料等

本郷一夫編（2015）．シートブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ 第2版 建帛社

若尾良徳・岡部康成（2010）．発達心理学で読み解く保育エピソード 北樹出版

岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．エピソードでつかむ生涯発達心理学 ミネルヴァ書房

伊藤亜矢子編（2011）．エピソードでつかむ児童心理学 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

ミニ・レポート（40％）：講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることを重視する）。

定期試験（60％）：発達心理学の諸理論、発達の課題、子どもに対する適切な関わりなどの知識が獲得されていることを筆記試験により評価する。

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷昌代、 ポーター倫子、田中早苗 担当形態：オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
①通常学級にも在籍している特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。②発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今日の状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。④合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。⑤特別な支援を必要とする児・者と共に生活する親や家族、更に保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家庭支援やピアサポートについて理解している。⑥特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えた理解につなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。				
授業の概要				
教職を目指す学生は、大学生活を通して保育、教育の現場で多様な子どもたちと実践的に関わる。本科目では講義、グループディスカッションを含むワークによって自身の育ちの過程での体験・ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ？」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知ることで、「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ、子どもの姿から学ぼうとする志向性が個々の支援の方法を見出させるものであることを知る。保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解と不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性について知り、個々の場面での対応を導く「その人理解」には、乳幼児期から成人までの長いスパンでの俯瞰的な視座と園・学校という集団生活の場と合わせて家庭等までの姿を観る総合的視座が重要であることを理解する。				
授業計画				
第1回：視覚障害・聴覚障害・病弱等を含む様々は障害や発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さ、困難さについて考える。（担当：谷昌代）				
第2回：自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を考える。（担当：谷昌代）				
第3回：特別支援に関する教育課程の枠組みを踏まえ、発達障害児等の事例を分析し、個別指導計画及				

び支援計画について考える。（担当：谷昌代）

第4回：学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間連携について考える。（担当：谷昌代）

第5回：特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。（担当：谷昌代）

第6回：母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。（担当：谷昌代）

第7回：自閉症スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か、語用論について考える。
（担当：ポーター倫子）

第8回：自閉症スペクトラム障害②：興味の偏りと発達の凸凹がもたらす困難について考える。
（担当：ポーター倫子）

第9回：注意欠如多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。（担当：田中早苗）

第10回：「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか、大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていないだろうか、考える。（担当：田中早苗）

第11回：学習障害：生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。通級による指導及び自立活動の指導と関連付けて考える。（担当：田中早苗）

第12回：二次障害：過剰適応からのうつと不登校問題を中心に考える。さらに、当事者の自立支援について考えていく。（担当：田中早苗）

第13回：自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。（担当：ポーター倫子）

第14回：障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。（担当：ポーター倫子）

第15回：インクルーシブ教育は、障害をもつ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人々が享受する教育理念であることを理解する。（担当：谷昌代）

定期試験

テキスト

授業内にて適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

特別支援教育（監修・松浪健四郎 藤田主一 三好仁司） 中山書店

学生に対する評価

定期試験（60％）、ミニレポート（20％）、授業内ワーク（20％）

授業科目名： 教育課程編成論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井 万寿夫、 川真田 早苗 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。			
②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型学校教育」が目指す教育について知る。			
③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。			
④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。			
授業の概要			
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業計画と評価の方法について知る／教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。（川真田）			
第2回：教育課程行政：教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。（川真田）			
第3回：学習指導要領の歴史的変遷（1）：我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。（川真田）			
第4回：学習指導要領の歴史的変遷（2）：学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。（川真田）			
第5回：学習指導要領の歴史的変遷（3）：「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。（川真田）			
第6回：学習指導要領の歴史的変遷（4）：「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について			

て知り、「令和の日本型学校教育」を目指していることを理解する。（川真田）（中間レポート）	
第7回：教育課程編成の方法：教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。（川真田）	
第8回：学校におけるカリキュラム開発：学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。（村井）	
第9回：小学校の教育課程：小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。（村井）	
第10回：中学校・高等学校の教育課程：学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。（村井）	
第11回：教科と教科外活動の教育課程：教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。（村井）	
第12回：地域と連携した教育課程編成：従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。（村井）（中間レポート）	
第13回：カリキュラム・マネジメントの理論：カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。（村井）	
第14回：カリキュラム・マネジメントの実践：小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。（村井）	
第15回：カリキュラム評価：カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。（村井）	
定期試験	
テキスト	
『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4	
参考書・参考資料等	
小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	
学生に対する評価	
定期試験50%、中間レポート30%（15×2）、授業態度20%	

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井万寿夫 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標 ①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか、評価の在り方も含めた観点から理解している。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例や模擬授業を通して考えることができる。			
授業の概要 道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子供たち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか、また、どのように行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤ではいくつかの実際の道徳授業をもとに自分なりの道徳授業について考える。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。） 第2回：道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性について資料をもとに考える。） 第3回：道徳性の発達（道徳性はどのように発達するかについての理論を知る。） 第4回：道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育について資料をもとに考える。） 第5回：道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育について資料をもとに考える。） 第6回：道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育について資料をもとに考える。） 第7回：特別の教科 道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。） 第8回：特別の教科 道徳②（子供を主体とした道徳教育について知る。）			

第9回：特別の教科 道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）

第10回：特別の教科 道徳の指導方法（道徳指導における様々な方法について知る。）

第11回：道徳の授業の実際（どのように「考え議論する道徳」の授業が行われ、どのように評価しているかについて考える。）

第12回：幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）

第13回：外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から1つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）

第14回：多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業についての展開案を作成したり模擬授業したりして、互いに考える。）

第15回：多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）

定期試験

テキスト

『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』文部科学省2017年告示，『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』文部科学省2017年告示

学生に対する評価

小レポート20%、小テスト20%、授業態度10%、定期試験50%

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：村井万寿夫 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標 ①意義と目的：総合的な学習の時間や総合的な探究の時間に関心をもち、創設された背景・趣旨・目標・内容を知る。 ②指導計画の作成：総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を子ども主体で展開していくために年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 ③探究：総合的な学習の時間の単元計画や実践例を調べまとめ、伝え合うことができる。 ④評価の方法：総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の評価の考え方や方法を知る。 ⑤授業改善：子ども主体で展開する総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の授業モデルを知る。 ⑤総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の創造：自己が先生だとしたら、どんな総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の授業を行いたいのか考えることができる。			
授業の概要 総合的な学習の時間は、平成10年の小学校、中学校の学習指導要領改訂に伴い創設された。高等学校においても平成11年の学習指導要領改訂に伴い創設され、平成30年の改訂では総合的な探究の時間となった。その趣旨は、自ら学び自ら考える「生きる力」を育むため、児童生徒が自ら課題を設定し、解決のための方法を考え追究・探究し、自分なりの方法でまとめ伝え合う主体的・対話的で深い学びを実現することである。このような学習について自己の小学生、中学生、高校生の頃を思い出しながら、自分なりに意義づけや価値づけを行う。その上で、児童生徒が主体的に追究・探究活動を行うための年間指導計画や単元計画及び評価の方法について、実践例やモデルをもとに理解する。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間：「総合的な学習の時間とは」について各自の考えや経験をもとにグループ討論する／オリエンテーション：グループ討論の内容を想起しながら教科と関連させた授業の計画や内容等を知る。 第2回：創設の背景・趣旨と目標：どのような背景で総合的な学習の時間が創設されたのかについて知り、学習指導要領における小・中・高等学校の総合的な学習の時間の目標について比較しながら理解する。高等学校における目標については「総合的な探究の時間」とも比較してみる。 第3回：平成15年の一部改正内容をもとに「目的」と「目標」の関係について知り、児童生徒の主体的			

・対話的で深い学びを実現するための年間指導計画の重要性を知り、具体的な実践例について理解する。 第4回：インターネット等で小学校、中学校、高等学校の総合的な学習の時間の単元計画や実践例を調べ、具体的な事例についてのレポートを作成する。（小レポート） 第5回：レポート内容をもとに小学校、中学校、高等学校でどのような総合的な学習の時間を行っているか報告し合い、単元計画を作成することの重要性について理解する。 （グループ報告） 第6回：評価の方法：総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の評価の考え方や方法について理解する。 第7回：授業改善：教師が考える「うまくいった事例」「うまくいかなかった事例」をもとに子ども主体で展開する授業モデルを知る。 第8回：総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の創造：子どもが主体の総合的な学習の時間を実現するため、自己が小学校、中学校、高等学校の先生だとしたら、どんな総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の授業を行いたい考える。（期末レポート） 定期試験 なし
テキスト 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 グループ討論10%、小レポート15%、グループ報告10%、期末レポート50%、授業態度15%

授業科目名： 特別活動の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：村井万寿夫 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標			
①特別活動の意義と目的：「特別活動」に関心をもち、教育課程の位置付けと学習指導要領改訂に見る変化について知る。			
②特別活動の領域と内容：「特別活動とは何か」考えながら、「自己実現」のための特別活動の領域（各活動）と内容について理解することができる。			
③各活動の内容・展開・評価：学級活動やホームルーム活動、児童会活動や生徒会活動、学校行事の内容や展開、評価の方法について理解することができる。			
④学級づくり・ホームづくり：自己が小学校、中学校、高等学校の先生だとしたら、どんな学級・ホームをつくりたいか考えることができる。			
授業の概要			
特別活動は、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育むことを目指す活動である。これらのことを自らの経験と照らし合わせながら理解する。具体的には特別活動の領域（各活動）・内容・方法、学級活動（小中）、ホームルーム活動（高）の内容・展開・評価の方法、児童会行事（小）、生徒会行事（中高）、クラブ活動（小）の内容と展開・評価の方法、学校行事の各内容、ねらいと展開・評価の方法である。これらを通して、特色ある学級づくり・ホームづくりについて構想する。			
授業計画			
第1回：特別活動とは：「特別活動とは何か」について各自の考えや経験をもとにグループ討論する／オリエンテーション：グループ討論の内容を想起しながら授業の計画や内容等を知る。			
第2回：教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけと学習指導要領に見る変遷について理解する。			
第3回：特別活動の今日的意義：再び「特別活動とは何か」について考えながら今日的意義を知るとともに、目的論としての自己実現について理解する。（小テスト）			
第4回：特別活動の領域：小学校、中学校、高等学校における特別活動の領域（各活動）と内容について理解し、自己の経験と結びつけて考える。（小レポート）			

第5回：学級活動・ホームルーム活動：小・中学校の学級活動、高等学校におけるホームルーム活動の内容、展開、評価の方法について理解する。

第6回：児童会活動・生徒会活動：小学校における児童会行事、中・高等学校における生徒会活動、小学校におけるクラブ活動の内容、展開、評価の方法について理解する。

第7回：学校行事：学校行事の各内容における小・中・高等学校のねらいと展開、評価の方法について理解する。

第8回：学級・ホームづくり：特色ある学校づくりと特別活動の観点から、自己が小学校、中学校、高等学校の先生だとしたら、どんな学級・ホームをつくりたいか考える。（期末レポート）

定期試験 なし

テキスト

小学校学習指導要領解説 特別活動値編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

グループ討論10%、小テスト15%、小レポート20%、期末レポート40%、授業態度15%

授業科目名：教育の方法 ・技術（幼児）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井万寿夫
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【教育方法の歴史的概観・基本原理】			
①教育方法の基礎的理解と実践を理解している。			
②これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。			
【授業の構成・評価・技術】			
①幼児、児童、教員、教室、教材など、授業や教育を構成する基礎的な要件を理解している。			
②学校における学習評価の基礎的な考え方を理解している。			
【学習計画・情報機器活用】			
①基礎的な学習理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、学習形態等の視点を含めた学習計画案を作成することができる。			
②子どもたちの興味・関心を高めたり学ぶ楽しさを味わわせたりするための教材を情報機器を用いて作成・提示することができる。			
授業の概要			
幼児教育における教育方法の歴史とその変遷を概観しながら、変わらない教育方法（不易）と変わった教育方法（流行）について整理する。これと同時に幼稚園教育におけるデジタル化（登園・降園管理など）についての状況を調べまとめる。また、園児自身がタブレット端末を使う教育方法についても調べまとめる。さらに、全国の小学校、中学校の児童生徒1人1台端末が整備され、さまざまな授業に活用されていることを知るとともに、幼小連携教育や栄養教育の観点から学生自身の考えを持ったり、教育に端末を活用するための自作教材を作って相互評価したりする。			
授業計画			
第1回 教育方法の歴史的概観：近世と現代における教育方法について概観しながら、幼稚園や小学校における現代の教育方法について考察する。			
第2回 現代における教育方法：デューイ、ブルーナーなどの教育方法論について概観し、子ども主体の活動や教育について考える。			
第3回 教育方法の基本原理：系統学習と問題解決学習を比較し、基本原理について考察する。			

(小テスト)

- 第4回 授業と学力：授業や教育とは何かについて考えるとともに、「学力の冰山モデル」から「しつけ」や「読書」などの重要性を知る。
- 第5回 教育と評価：学習指導要領や教育要領をもとに教育と評価について理解する。
- 第6回 授業理論と授業設計：授業理論の諸理論と授業設計（情報機器活用を含む）の手順を知る。
- 第7回 視聴覚機器の教育活用：視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。
- 第8回 情報機器の教育活用：幼稚園や小中学校のコンピュータ等のICTを活用した教育の方法を調べる。（小レポート）
- 第9回 放送教育の授業への適用：放送教育の役割をとらえ、NHKのWebサイトで教材を閲覧しながら、番組視聴の仕方を考える。
- 第10回 教材・教具・教科書・教材研究：教材・教具とは何か、また、教科書（絵本を含む）とは何かについて考えるとともに、教材研究について理解する。
- 第11回 情報機器を活用した授業：1人1台端末、デジタル教科書、電子黒板を活用した授業について知る。
- 第12回 教材の構想と作成：授業や教育活動で情報機器を活用する教材の構想を行い、計画案を作成する。
- 第13回 教材の作成：計画案に基づいてコンピュータとアプリ（PowerPoint／Googleスライド）を用いて教材（フラッシュ型教材）を作成する。（教材作成）
- 第14回 教材の完成とワークショップ交流：教材を完成させ、教材活用の意図を伝えた上でコンピュータを使って教材を紹介し合い、相互評価する。
- 第15回 教育方法と施設・設備：教育方法の多様化と幼稚園や学校の施設・設備の変化を知る。

定期試験

テキスト

「教育方法論」改訂版、谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編、一藝社、2019年、ISBN978-4-86359-098-4

参考書・参考資料等

参考資料：「教育の情報化ビジョン」文部科学省（平成23年4月28日）

学生に対する評価

定期試験50%、小テスト10%、小レポート10%、教材作成15%、授業態度15%

授業科目名：生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：村井万寿夫 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
①生徒指導の意義と役割：生徒指導の意義や役割、目的を理解するとともに、生徒指導の３機能及び生徒指導と教育相談の関係について理解している。			
②教育課程と生徒指導：各教科、道徳教育、総合的な学習（探究）の時間、特別活動における生徒指導の意義について理解している。			
③生徒指導の方法：集団指導と個別指導の方法原理について理解し、学級担任や教科担任の役割や連携について考えることができる。			
④いじめ問題と生徒指導：いじめの定義や認知件数と課題及び対応の在り方について考えることができる。			
⑤不登校と生徒指導：不登校の変遷をもとに児童生徒の心理を考えたり、どのような支援や対応が必要か考えたりすることができる。			
⑥インターネット社会における生徒指導：児童生徒のスマートフォンの所持率をもとにSNS利用の実態や性被害について理解することができる。			
⑦生徒指導と法：学校の規則である校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒（停学・退学）などの内容について理解することができる。			
授業の概要			
生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校種に応じた生徒指導を教師間で進めていくことが求められている。また、生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つ。これらのことを理解したのちに、生徒指導上の課題を「いじめ問題」「不登校」「SNS利用」の観点から現状を把握するとともに児童生徒にとってどのような対応がよいかについて主体的に考える。さらに、生徒指導における法とその扱いの難しさについて理解する。以上のことを通して、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の重要性について学ぶ。			
授業計画			
第1回：生徒指導の意義と役割：生徒指導の意義や役割、目的を理解するとともに、生徒指導の３機能（①児童生徒に自己存在感を与える、②共感的な人間関係を育成する、③自己決定の			

場を与え自己の可能性の開発を援助する)について知るとともに生徒指導と教育相談の関係について「集団」と「個」の観点から理解する。

第2回：教育課程と生徒指導：生徒指導は各教科、道德教育、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、すべての教育課程において機能することが求められることを理解する。

第3回：生徒指導の方法：集団指導と個別指導の方法原理について「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」から理解し、学級担任・教科担任の役割や児童生徒理解と共有及び連携について考える。

第4回：いじめ問題と生徒指導：いじめの定義と認知件数について知り、社会に影響を与えたいくつかのいじめ事件をもとにいくつかのケースに分類し、ケースごとの対応についてグループで考え、意見交換する。

第5回：不登校問題と生徒指導：不登校の概念とその変遷について知り、不登校になるきっかけをいくつかに分類し、きっかけの種類ごとの対応についてグループで考え、意見交換する。

第6回：インターネット社会における生徒指導：インターネット普及に伴う小学生、中学生、高校生のスマートフォン所持率及びSNS利用の実態や性被害について知るとともに、よりよい対応についてグループで考え、意見交換する。

第7回：生徒指導と法：学校の規則である校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒（高等学校においては停学・退学）などの内容について理解するとともに、生徒指導における法の扱いの難しさを知る。

第8回：チームで取り組む生徒指導：「学級王国」と「学級崩壊」を関連付けて考えながらチームで取り組む生徒指導の重要性について知り、「連携」をキーワードに期末レポートを作成する。

定期試験 なし

テキスト

『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8

参考書・参考資料等

参考資料「生徒指導提要」（文部科学省平成22年3月）

学生に対する評価

グループワーク20%、小テスト20%、小レポート15%、期末レポート30%、授業態度15%

授業科目名：教育相談		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下健
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
教育現場に出る際にどのような教育相談活動を展開すべきかについて十分に考察を深め、自分なりの考えを持つとともに、教育相談の具体的方法を学び、幼児・児童支援における留意点についても理解することができる。				
授業の概要				
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。本講義では、教育現場において対応が求められる自閉スペクトラム障害、限局性学習障害、注意欠如多動症、不登校、いじめ、非行、虐待、統合失調症、気分障害を取り上げる。さらに、教員として修得が推奨されるカウンセリングの態度や技法についても扱う。				
授業計画				
第1回：教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える				
第2回：子どもの貧困：貧困について理解を深める				
第3回：自閉スペクトラム障害：自閉スペクトラム障害の特徴について理解を深める				
第4回：限局性学習障害：限局性学習障害の特徴について理解を深める				
第5回：注意欠如多動症：注意欠如多動症の特徴について理解を深める				
第6回：不登校：不登校について理解を深める				
第7回：いじめ：いじめについて理解を深める				
第8回：非行：非行について理解を深める				
第9回：虐待：虐待について理解を深める				
第10回：自殺：自殺について理解を深める				
第11回：統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める				
第12回：気分障害：気分障害の特徴について理解を深める				
第13回：カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する				

第14回：連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める
 第15回：統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える
 定期試験は実施しない。

テキスト

なし。適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

角田 豊・片山 紀子・小松 貴弘（編著）（2016）．子どもを育む学校臨床力—多様性の時代の
 生徒指導教育相談特別支援— 創元社

春日井 敏之・伊藤 美奈子（編）（2011）．よくわかる教育相談(やわらかアカデミズム「わか
 る」シリーズ) ミネルヴァ書房

学生に対する評価

リアクションペーパー（30%）、講義の受講態度（30%）、期末レポート（40%）

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（栄養）		単位数：2単位		担当教員名：茶谷信一、畑山千春	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 10～15人					
教員の連携・協力体制					
教職について求められる教科指導力及び生徒指導力等を確実に身に付けさせるため、グループ討論、事例研究、模擬授業等を組み合わせて授業を行い、各学生の「履修カルテ」を確認しながら、学修課題に即して助言する。また、教育委員会や学校現場の協力を得て学ぶ機会を設ける。					
授業のテーマ及び到達目標					
①学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。 ②食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができるようになる。					
授業の概要					
この科目は、栄養教諭一種免許の資格取得を目指す学生が、4年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づくグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る					
授業計画					
第1回：オリエンテーション 本授業のねらいの説明と「履修カルテ」の確認。 (担当：茶谷、畑山)					
第2回：教員としての倫理・服務について考える。(担当：茶谷)					
第3回：教員としての使命感等について考える(地域社会との連携、等を含む)。 (担当：茶谷)					
第4回：食に関する指導の意義と内容 学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。(担当：畑山)					
第5回：食に関する指導の実際① 給食指導(準備、食事、後片付け)、栄養指導について、ICTを活用するなど、実際的な方法を学ぶ。(担当：畑山)					
第6回：食に関する指導の実際② ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。(担当：畑山)					
第7回：学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。(担当：茶谷)					
第8回：特別支援教育 特別な配慮を要する児童への支援についてICT等も活用しながら学び、栄養教諭としての関わり方を考える。(担当：茶谷)					
第9回：優れた授業から学ぶ①優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。(担当：畑山)					
第10回：優れた授業から学ぶ②優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。(担当：畑山)					

第11回：給食指導案と評価表の作成 既習事項やインターネット情報等を参考に対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。（担当：畑山）
第12回：給食指導模擬授業 最も自信が持てるテーマによる5分間の給食指導について、ICTを用いるなど工夫しながら模擬授業を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。（担当：茶谷、畑山）
第13回：まとめと振り返り 子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。（担当：茶谷、畑山）
第14回：補完指導①「履修カルテ」を記入し、教科指導力を中心に、学生個別の課題を見つける。（担当：茶谷）
第15回：補完指導②「履修カルテ」の内容について共有化を図るため意見交換する。（担当：茶谷）

テキスト

なし（必要に応じて資料を準備する）

参考書・参考資料等

『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編 教育出版 2017 ISBN 978-4-316-80450-7

学生に対する評価

- 模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果（40%）
- 課題レポートの提出状況（期限、量、質）（40%）
- 授業への能動的な参加（発言・応答）（20%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。